

つながるスイッチ!!

久留米市社会福祉協議会



vol.9 支え合い推進会議 —その⑦— 「日吉校区」の取り組み

支え合い推進会議の取り組みを紹介していくシリーズ第7弾。今回は、「日吉校区」をご紹介します。

日吉校区まちづくり振興会

会長 山村 剛尚さん

事務局長 野口 久幸さん

日吉校区社会福祉協議会

会長 佐田 志保子さん

日吉地区民生委員児童委員協議会

会長 佐藤 美紀子さん

日吉ふれあいの会

会長 橋本 光子さん

「プレ調査」の実施

支え合い推進会議の中で、高齢者が抱えている困りごとをつかもうと「支え合いアンケート」を実施することに決定。本番のアンケートの前に、まずは対象者を約100人にしぼった「プレ調査」を行いました。このプレ調査は、「回答しづらい内容はないか」「分析しづらい点はないか」「目的に合った設問や選択肢になっているか」ということを検討するために行ったものです。プレ調査の内容は支え合い推進会議で話し合ってお作りし、調査活動は、ふれあいの

の会が担いました。ふれあいの会は一人暮らし高齢者の見守り訪問などを行っている団体で、調査の回答には、見守り訪問対象者の皆さんに協力してもらいました。

橋本さんは、「対象者の皆さんとは日頃からの信頼関係があるので、調査はスムーズに進み、回収率は8割を超えました」とプレ調査を終えての感想を話してくれました。

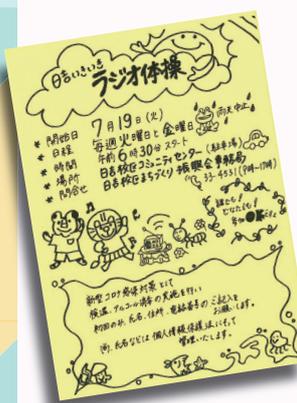


「支え合いアンケート」の実施

プレ調査の結果や、調査を担ったふれあいの会の声などを材料に、支え合い推進会議でアンケート内容を再検討しました。まず、プレ調査で十分に傾向が捉えられた設問を省きました。さらに、「高齢者でも支える側になることが生きがいになる」という意見から「あなた自身が簡単な手助けができますか?」という設問を加えるなど、プレ調査にはなかった要素もいくつか追加して、本番用の「支え合いアンケート」が完成しました。

高齢者基礎調査と併せて民生委員が担当。75歳以上の一人暮らし高齢者世帯、高齢者のみ世帯を対象に実施しました。アンケートの結果を見て、「自分も手助けの活動ができる、という人が50%もいた。元気な高齢者が多いということが分かって嬉しかったです」と佐藤さん。「校区の活動には参加していても、家では寂しいと感じている人が多いことを知りました」と橋本さん。「寂しい思いをしている皆さんのためにも、交流できる場所がもっと必要だと感じました」と佐田さんは話します。

また、「関心があること」でダントツ1位だったのは、「体操・散歩」。この結果を踏まえ、支え合いメンバーの運営で、令和4年7月から「日吉いきいきラジオ体操」をスタート。毎週火曜と金曜の朝6時30分から、コミュニティセンターで行っています。「ラジオ体操をきっかけに、初めてコミセンに来てくれた人もいました。体操をすることだけが目的ではなく、人と人とのつながりがりづくりや、今後の担い手発掘にもつながっています」と野口さんは話します。



活動をして思うこと これからのこと

● 山村さん

日吉校区は賑やかなエリアです。まちなかとの連携が取りやすい一方で、マンションがどんどん増え、住民同士のコミュニケーションが取りにくくなりました。自治会への加入率も70%を割りました。日吉小学校が近くにありますが、今、学校との関わりが薄いので、学校の先生たち、PTA、子どもたちなどをもっと関わって情報交換をしていきたいですね。あと、36ある自治会の足並みももっと揃って、活性化できるように努めていきたいです。

● 佐田さん

次の担い手不足が課題です。どうやったら校区の皆さんに活動への関心をもってもらうか、人材の発掘方法を皆で模索しています。あと、個人的なことになりますが、日吉小学校などで「久留米にわか」を教えてください。方言⇨文化だと思っています。久留米の文化をおとにも子どもにも、多くの人に広めていきたいと思っています。

● 橋本さん

これまでサロン運営に関することは、ふれあいの会会長と校区社協会長ですべて決めていましたが、今は、各地区にいる副会長さんにお任せ

しています。そうすることで、それぞれが責任をもって活動するようになり、後継者が育っていったらと考えられています。また、コロナの影響で3年間、校区のイベントがあまりできませんでした。コロナが落ち着いたら、以前の賑わいを取り戻せるように頑張っていきたいです。

● 野口さん

各団体それぞれに後継者不足の課題があります。次を育てていかないと、活動自体が続きません。これは深刻な問題です。ラジオ体操がスタートしましたが、今後もっと開催場所を増やしていきたいです。ラジオ体操会場イベントの案内等も行えば、校区行事の周知にもつながるかもしれません。ラジオ体操参加者で、月1回の交流会を行ってもいいですよ。新たなコミュニケーションの場をたくさん作っていきたいです。

● 佐藤さん

子どもたちや若い世代ともしっかりコミュニケーションをとっていきたいです。例えば、私含めて着付けができる人が校区にたくさんいるので、夏に地域のおとなと小学生たちに浴衣の着付けをして、土曜夜市に出かけてもらうのもいいですね。地域にいる人と話すのも楽しいよ(笑)と、思ってもらいたいです。

取材を終えて

お話を伺いながら、5人の仲の良さ、団結力が伝わってきました。どの校区も抱えている担い手不足の課題がありながらも、子どもたち若い世代に目を向けて、小学校との関わり強化などに動き出そうとしていました。各団体が協力しながら、そして前向きに、積極的に活動を行っているのが印象的でした。



野口 久幸さん 橋本 光子さん 佐田 志保子さん 佐藤 美紀子さん 山村 剛尚さん

皆さん、趣味の幅が広く、そして多趣味。山村さんは尺八が得意で、校区の文化祭で披露したことも。野口さんはゴルフ、久留米にわか、日本舞踊(博多座で踊った経験あり!)。佐藤さんは着付けと、10年以上前から習っている中国楽器の二胡。佐田さんは久留米にわか伝道師でありつつ、お花も大好きで生け花を嗜んでいます。そして、ご主人と飲食店を営む橋本さんは「コロナで時間ができたことで夫と一緒に夕食を食べるようになり、夫婦の時間が増えました」と、温かなエピソードを披露。皆さん「おお!」と盛り上がりました。仲が良い5人は、コロナ前はよく飲みに行っていたそうで、皆さん口を揃えて「佐田さんが一番お酒に強いんですよ!」と!和気あいあとした雰囲気でした。

- プレ調査を行ったことが、より効果的な「支え合いアンケート」の作成につながった。
- プレ調査は日吉ふれあいの会、支え合いアンケートは民生委員が担当。校区内の団体が役割分担しながら協力して調査を実施。
- アンケート結果を踏まえて、ラジオ体操を実施。コミセン事務局だけに頼るのではなく、支え合い推進会議のメンバー自身が運営を行っている。

久留米市社会福祉協議会

〒830-0027 久留米市長門石1-1-34
TEL: 0942-34-3035
FAX: 0942-34-3090

メール: heartful@heartful-volunteer.net
HP: <http://www.heartful-volunteer.net>

久留米市社会福祉協議会 検索

webサイト

[note一一つくる、つながる、とどける。]で「つながるスイッチ!!」を検索してください!

つながるスイッチ!!はHPでもwebマガジンでも掲載中

